

和良の郷だより

「マチ」の暮らし「ムラ」の暮らし
「ウチ（家族）」とふるさと

お盆には「マチ」に出ていった子どもや孫が「ウチ」に帰ってくるから忙しいと、少し嬉しそうに顔で話される。お盆だけでなく、お正月やゴールデンウィーク、お祭りにも帰省して余暇をふるさとで過ごし、親孝行やお手伝いをと考える他出子も多いです。また田んぼ



同窓会に集まった和良町出身の皆さん 久しぶりの再会に笑顔がこぼれる

晩夏号
8月1日号
和良おこし協議会発行



のお手伝いをと帰省される人もあります。

他出子とは、進学や就職、結婚などによって生まれた地域を離れて、他所で生活している家族を指してそう呼びます。和良で生まれ、中距離圏である名古屋や岐阜市で暮らしている人、東京や大阪といった遠距離圏、又は海外で生活している人もあると思います。

和良で生まれて、和良小学校や郡上東中学校、郡上高校や郡上北高を卒業し、都心部の学校に進学していく子どもたちも多いと思います。子ども達には叶えたい夢もあるので、そういった想いは大切にしていきたいです。その一方で方便だとしても、和良には仕事がないからとか、和良に居ても何にも出来ないからと、言い放ってしまうのは少し寂しい気がします。

「マチ」の暮らしには、物理的な幸せがあると思います。公共交通も発達し、いつでも欲しいものを買に行くことが出来るなど、便利で快適かもわかりません。では「ムラ」の暮らしには何もないのでしょうか？ そんなことはありません。豊かな自然環境と、伝統や文化を守ってきた集落の中では、そこに住む人々から大切なことを学びます。何よりもそういった人々たちの大切な絆が育まれて行きます。

この記事を目にしていただく他出子の方もあると思いますし、和良おこし協議会のFacebookをご覧いただき、和良の様子を知ってコメントや、励ましの言葉をいただいたりする事も多いです。

同窓会で「わらおこし」をご利用いただいたときにも同様ですが、「じきに和良に帰ってくるから、それまで頑張っていてね。」などとお話しをされる方もあります。隣近所では「いつものうちの親が世話になってすまんね。」などといった会話もあちらこちらであると思います。

お盆には「ふるさと納涼夏まつり」が開催されます。そこにあるビアガーデンで、帰省した家族と一杯やりながら、家や田んぼの事、集落や和良の事、少し話してみるのも良いのではないのでしょうか？

ふるさと和良町納涼夏まつり

～ホームカミングデー～

お盆で帰省されるお子さん、お孫さん、ご兄弟の方々をお誘いいただき、ご家族そろって「ふるさと和良町納涼夏まつり」に足を運んでみませんか？

ふるさと和良町で、夏の夜をみんなに楽しんでいただけるイベントです！

【日時】平成30年8月14日（火曜日）

【場所】和良運動公園（道の駅和良）

【内容】

- ・ 納涼盆踊り 午後八時〇〇分より
（和良音頭の踊りレクチャーあり）
- ・ あまごっかみ 午後五時〇〇分より
（捕まえたあまごはお持ち帰りできます）
- ・ 納涼ビアガーデン 午後六時〇〇分より
- ・ 子供屋台村 午後六時三〇分より
（1000円）
- ・ 郡上陣屋組ライブ 午後七時〇〇分
- ・ 和良、西和良の小中学生による
お囃子クラブ演奏 午後七時三〇分より
- ・ 踊り抽選会 午後九時〇〇分より
- 【主催】ふるさと和良町納涼夏まつり実行委員会
- 【後援】郡上自治会連合会和良支部、和良町郡上踊り保存会、郡上商工会和良支部、和良地域公民館、和良観光協会、和良おこし協議会
- 【問合せ先】ふるさと和良町納涼夏まつり実行委員会
和良振興事務所内 ☎0575（77）2211



「みんなで楽しく集落（ハス）」加藤真司
— 岐阜新聞「素描」連載より抜粋 —

地域のひと話している時に、「うちは自分の代で終わりだから」とか「子ども達には、和良に居ても仕事がないから、帰って来なくてもいいと言っている」と言う人がいます。子ども達に遠慮してなのか、強がってそういう言い方になるのでしょうか。大きな家にポツンと居るよりは、子どもや孫の顔を見ながら過ごしていた方が楽しいに決まっています。

和良を離れ、「マチ」で暮らす子ども達も、幸せな生活を送っているのでしょうか。物理的に充実した「マチ」の暮らしは確かに便利で快適だったりします。それでもやっぱり、古里で過ごした楽しい思い出や、家族や友達の事を思い出して懐かしむこともあると思います。お盆やお正月など長期の休みになると帰省して、家族と過ごしたり、同級生と過ごしていると思いません。

郡上市和良町では、2010年から地域づくり事業として、徳野貞雄熊本大学教授（当時）が考案した「T型集落点検」を導入し、各集落ごとに各家の家族構成などを書き込んで、その集落の現状を洗い出して情報共有しました。この先、人口減少はほとんど進みますが、集落を維持するために、何をしたらよいかの話し合いもしました。「マチ」に出て行った子ども達も、古里に関わっていたい想いはあるはず。そういう他出子（進学、就職、結婚などで地域を離れて暮らす人）に参加して欲しい、という想いをカタチにして行くための手法でした。

他出子にもそれぞれの暮らしがあり、仕事の都合や子ども達の事などもあり、うまく時間が取れず、期待通りの参加とはいかない事もありましたが、改めて家族や集落、ここで暮らして行く事に向き合う時間が出来ました。



H25年T型集落点検の様子（下洞地区）

よひご清流の里へ「はね」探検隊
— 体験型ツーリズム参加者募集中 —



今年も昨年引き続き、和良川を守る会のご協力をいただき、はねご探検隊を開催します。

和良に住んでいる皆さんにとっては、はねごの居る光景は当たり前で特別な事には感じないかもしれませんが、この世界最大の両生類が身近に見られる場所は、日本国内でも限られており、和良町は生息域の東限にあたります。

昨年は、そんな珍しいオオサンショウウオを一目見たいと、遠方では群馬、東京、静岡から参加される方もありました。

子どもさんお孫さんと一緒に、生態や特徴について学び、和良川に繰り出してみたいかがでしょうか？

日時：8月24日（金曜日） 8月25日（土曜日）
時間：9時30分～11時30分

11時30分、現地解散となります

集合：わらおこし 和良町下洞554

体験料：大人 1500円
（JAF 1000円（中学生以下））

「オオサンショウウオと和良川のいきものたち」の冊子を1家族に1冊プレゼント
主催：和良おこし協議会

※詳細に関しましてはお問い合わせください

問合せ・申し込み先：和良おこし協議会
和良町下洞554 ☎0575-77-2277

地域情報誌「和良の郷だより」
— 発行と配布に関するお知らせ —

4月から各月1日発行となっています「和良の郷だより」は基本、郡上市からの広報と共に全戸配布とさせていただきます。ですが、まれに印刷工程の兼ね合いで広報に間に合わないケースがあり、その際には新聞の折り込みとして各家庭に届けられています。本当は、和良町に暮らしている全ての方に向けてお届けしたい！ご覧いただきたい！という気持ちでいるのですが、現状では難しい場合があります。

最近「和良の郷だより楽しみしてるよ」「今月号に〇〇について書いてあったね」などと、お声掛けいただく場面も増えてきてとても嬉しく感じています。

もしも待っているのに「今月は手元に届いてないわ」という時や、「和良を離れて暮らす家族や友人に手紙と一緒に送りたい」などという場合がございましたら、わらおこし（和良町下洞554）にお越しくださいば、お渡しできます。また数に限りはございますが、バツクナンバーもありますので併せてお渡しすることも可能なのでご相談ください。



和良町の人口 平成30年7月1日現在

